

国語

自らの考えを形成し読書の愉しさに気付く読者の育成 —ショートショート文学を批評的に読むことを通して—

木更津市立木更津第一小学校教諭 かわな よういちろう 川名 洋一郎

小学校における「文学的な文章」の読むことの学習指導では、読者の主体性を尊重し、考えの形成を行う読者の育成を重視している。考えの形成に関わる能力を育成するためには、評価して読む批評の学習を、読むことの学習指導に組み込む必要がある。批評は中学校3年生の学習内容であるため、小学生に適した学習指導として組織し直す必要がある。そのためには、①評価行為を選択や順位付けとして捉える、②作品やジャンルの選択、③継続的・日常的な読書活動の三つの視点で授業を構築することが必要と考えた。授業実践を行った結果、小学生における文学的な文章の読むことの学習指導において、考えの形成を効果的に行い、読者の主体性を尊重した授業の可能性を見出すことができた。

社会

社会形成力を高める小学校社会科の構想 —小学校第3学年「くらしを守る」の単元を通して—

成田市立久住小学校教諭（前同市立公津の杜小学校教諭） たかはし けんすけ 高橋 堅介

本研究の目的は、児童の社会形成力を高めることである。
社会形成力は、科学的社会認識、意思決定力、社会的実践力を総合した資質・能力であり、端的に言えば「地域の人々となつなかり合う力」である。具体的な取組としては、地域の安全を守る人々の働きを捉えることを通して、交通事故を減らすために、自分たちにできる協力について考えた。また、次年度に入学する新入生の保護者へ「交通安全新聞」を発信し、学びを地域の人々の生活に役立てることにした。実践を通して、地域人材を単元の共同開発者として位置付けて活用することや、学びを人々の生活に役立て、地域の人々となつなかり合う視点を取り入れた授業構成が、社会形成力を育成する上で有効であることが明らかになった。

数学

中学校数学科「図形」における問題をつくり関連付ける活動を取り入れた授業の工夫 —同じように解くことに着目して—

佐倉市立根郷中学校教諭（前同市立西志津中学校教諭） とうへい さち 東平 幸

本研究は、問題をつくり、同じように解くことに着目して関連付ける活動を取り入れた授業の工夫をすることが、知識の定着や数学的な思考力の向上、問題解決の過程や結果を振り返って考えようとする態度の育成に有効であることを明らかにするものである。

文献研究・教材研究を基に、第3学年「相似な図形」での授業実践、分析を行った。その結果、生徒は知識が定着し数学的な思考力が向上した。さらに、新たな問題を見いだそうとしたり問題解決の過程や結果を振り返って考えようとしたりする生徒が増えた。しかし、授業のまとめにおいて、自分がどのように考えたのか、その過程について記述することに課題が残った。

理科

主体的・対話的で深い学びを実践するための教材開発 －「動物の体のつくりと働き」における心臓モデルの開発－

茂原市立本納中学校教諭（前同市立東中学校教諭） さいとう りょうへい 齊藤 亮平

中学校第2学年「動物の体のつくりと働き」の学習において、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するために、心臓のモデル教材を開発した。本教材の特徴は、直接見ることが困難な心臓の働きについて、生徒が自由に操作することを通して学習できることである。この心臓モデル教材の効果を検証するために研究協力校において授業実践を行った。授業では、生徒同士が課題を解決するために対話しながら学習に取り組む姿や、学習の中から生じた疑問を解決するために試行錯誤する姿が見られた。これまで体験的な学習が難しかった本単元の学習において、生徒の課題探究的な学習を可能にした結果、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」のそれぞれにおいて効果的な学習を可能にすることが確認できた。

体育

跳び箱運動における思考力、判断力、表現力を高める体育指導の在り方 －他者観察と自己観察に着目した課題解決を目指して－

鋸南町立鋸南小学校教諭 うばた ひろみ 宇畑 比路美

本研究では、跳び箱運動学習において他者観察と自己観察を取り入れ、観察内容を互いに伝え合うことで、課題解決のための思考力、判断力、表現力が高まり、知識及び技能が向上することを明らかにした。技能異質グループを編成し、児童は一人一枚のホワイトボード上でマグネット人形を動かしながら、観察内容を伝え合った。また、児童は毎授業後、学習カードへ自己の運動感覚について振り返りを記述した。教師は、発問や問いかけによって、運動への気付きを引き出し、技能ポイントに迫った。教師が児童の運動観察から得た気付きを、整理しながら共有していくことで思考力、判断力、表現力が高まった。その結果、知識と技能も向上した。

学校・学年・学級経営

「いじめ対応」に関する研修プログラムの開発 －児童相互の人間関係を円滑にする学級経営を目指して－

袖ヶ浦市立奈良輪小学校教諭（前市原市立国分寺台西小学校教諭） しもおおさわ しょうご 下大澤 翔吾

いじめ対応のための教員の資質能力を高め、学級経営力の向上を目指していくために、いじめの現状や教員の対応の課題について明らかにした。そして、教員向けの研修の開発を行った。研修では、事例研究にNHK for Schoolの映像教材を使用し、ロールプレイングやグループワークを行った。また、専門家からの助言として、教育事務所の協力を得て、児童からの相談への乗り方や、カウンセリング視点をもった話の仕方、保護者対応の基礎知識について、専門家へのインタビューを動画にして使用した。その結果、開発した研修は、いじめ対応のための資質能力とした「いじめを早期発見するための認知力」、「児童への対応力」、「組織での対応力」を高めるとともに学級経営力の向上にも期待できるものであることが分かった。

現代的教育課題

教科の学びにつながるプログラミング教育

ー第6学年算数科「比例と反比例」グラフ作成及び判別の授業実践を通してー

県教育庁東葛飾教育事務所指導主事（前柏市立富勢西小学校教諭） もととし かずひろ 本橋 一浩

プログラミング教育のねらいの一つである「各教科等での学びをより確実なものとする」とに重点を置き、第6学年の算数科「比例と反比例」の単元において、プログラミングを取り入れた教材開発を行った。グラフを作成する検証授業では、児童一人一人がScratchを用いて比例と反比例のグラフを作成し、グラフの特徴を掴んだ。また、単元の最後にはフローチャートとScratchを用いたグラフ判別の検証授業を行い、児童は比例と反比例のグラフの特徴について理解することができた。検証授業の結果から、「比例と反比例」の単元においてプログラミング教育を取り入れることで、児童のプログラミング的思考を育成するとともに、比例や反比例に関する理解を一層深めることができた。

特別支援教育(肢体不自由)

重度・重複障害のある生徒の自立活動の指導の在り方

ー学習評価ツールの活用による授業改善を通してー

県立袖ヶ浦特別支援学校教諭 やぎぬま ふみよし 柳沼 史義

肢体不自由特別支援学校において、「障害の重度・重複化への対応」、「教員の専門性の向上」が喫緊の課題となっている。本研究では、肢体不自由特別支援学校での勤務年数5年以下の教員（以下、若手教員）を対象に、自立活動における学習評価ツールを作成した。また、このツールを活用した授業実践を行い、その有効性の確認を行った。授業実践前後のインタビュー調査の結果、学習評価ツールは、若手教員の子供の見方・捉え方、指導支援方法の向上に影響を与えることが分かった。また、若手教員とベテラン教員の効率的な意見交換に寄与することも明らかとなった。このことから、学習評価ツールの活用が、自立活動の指導の充実につながると考える。

特別支援教育(キャリア教育)

軽度知的障害者の自己決定支援についての考察

ー自己決定尺度の作成と自己決定支援ツールを通してー

県立特別支援学校流山高等学園教諭 どい やすひと 土肥 靖人

本研究では、軽度知的障害の生徒の自己決定力を高め、生徒自らが進路を決定するための支援につながるよう、SDI (Self-Determination Inventory) に基づき、生徒の自己決定力を計測する自己決定尺度（以下、「尺度」）を作成した。質問紙調査の結果は、尺度の有用性を示していた。さらに、尺度を基にした生徒の自己決定を促す目標設定シート、生徒の自己決定を支援する教員用のツールを作成した。実践の結果、目標設定シートを用いることによって、生徒が尺度を参考に自ら目標を設定し、目標達成のために主体的に取り組むなどの成果が見られた。また、教員はツールを基にすることで具体的な支援方法を検討しやすくなり、その結果、適切な指導を行うことができた。

教育臨床

教育相談体制を支える同僚性

柏市立増尾西小学校教諭（前同市立酒井根東小学校教諭）

かめい
亀井あやこ
綾子

県立安房特別支援学校教諭

おおがね
大金ふみあき
文晶

同僚と支え合う良好な関係性を一般的に同僚性と称するが、学校現場では多忙化による教師の同僚関係の希薄化が危惧されている。学校現場における望ましい同僚性とはいかなるものか、教師の同僚との関わり方に着目した。実際に経験した出来事から同僚性についての在り方をアンケート調査し、分析を行った。その結果、同僚性を「心理的なサポート関係」「チーム・組織の一員としてのサポート関係」「個を尊重するサポート関係」の3カテゴリーに分けることができた。さらに同僚性が児童生徒、保護者に「安心・信頼」をもたらし、教師の日々の「指導・支援体制の基盤」となることが明らかになった。

企業研修

教育的課題を民間企業の業務と経営手法から考える（柏高島屋派遣）

県立柏南高等学校教諭（前県立流山北高等学校教諭）

わたなべ
渡邊たいが
大雅

今日の学校現場が抱える喫緊の課題は、生徒の学力低下、国際化や情報化、いじめ・不登校の問題、教育における私費負担割合から見て取れる教育の格差など様々である。その中でも今回は、高校卒業後に就職した生徒の離職率の高さを一因とする、若者のフリーター、ニートの多さの改善に焦点をあてて研修に臨んだ。高卒就職者が3年後に離職している割合が約4割である現状を踏まえ、社会進出後、継続就業していくために学校や教師、生徒、企業に何ができるかを学んだ。特に考えさせられたことは、高卒就職の大半を占めている、「指定校求人1人1社制」の功罪についてである。また、自分で選んだ職場であるという意識を持たせることの大切さを深く実感できた。